

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

和歌山県 紀美野町

自治体名：和歌山県 紀美野町

担当課名：教育委員会教育課

電話番号：073-489-5910

1.自治体の基本情報

基本情報

面積	1 2 8.3 4 km ² (R 6.1 1 月末時点)
人口	7 6 6 7 人 (R 6.1 1 月末時点)
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	1 4 3 人 (R 6.1 1 月末時点)
部活動数	1 0 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	未設置
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	未策定

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

現在、当町の運動部活動は、軟式野球部、男子バスケットボール部、陸上競技部、ソフトテニス部、水泳部、駅伝部の6つが活動している。

少子化に伴い、サッカー部や女子バスケットボール部、女子バレー部等廃部になったり、最近年度により軟式野球部や男子バスケットボール部等が他の中学校と合同チームによる活動を行うこともある。

昨今の出生者数を見ると団体スポーツの将来的な存続は難しいものと考えている。

改革推進期間である3年間で、成績や勝敗にこだわらず種目にとらわれない「身体づくり」「運

動習慣の確立」を主体とした活動を第一に進め、生涯スポーツに親しむ素地を育む。同時に教職員の働き方改革の推進を目標とし地域移行を進める。

また、長年にわたって部活動は、学校教育の一環で運営するものという考えが生徒、保護者、地域に根付いている。今後、地域移行に当たり部活動が教育課程外のものであることを関係者が認識することが必要である。同時に地域移行推進にあたって学校の教職員以外の地域内外・大学生等を含めた広範囲から指導者の掘り起こし、確保も同時に進めていかなければならない。

紀美野町出生者数 推移



出典:住民基本台帳人口世帯数を基に作成

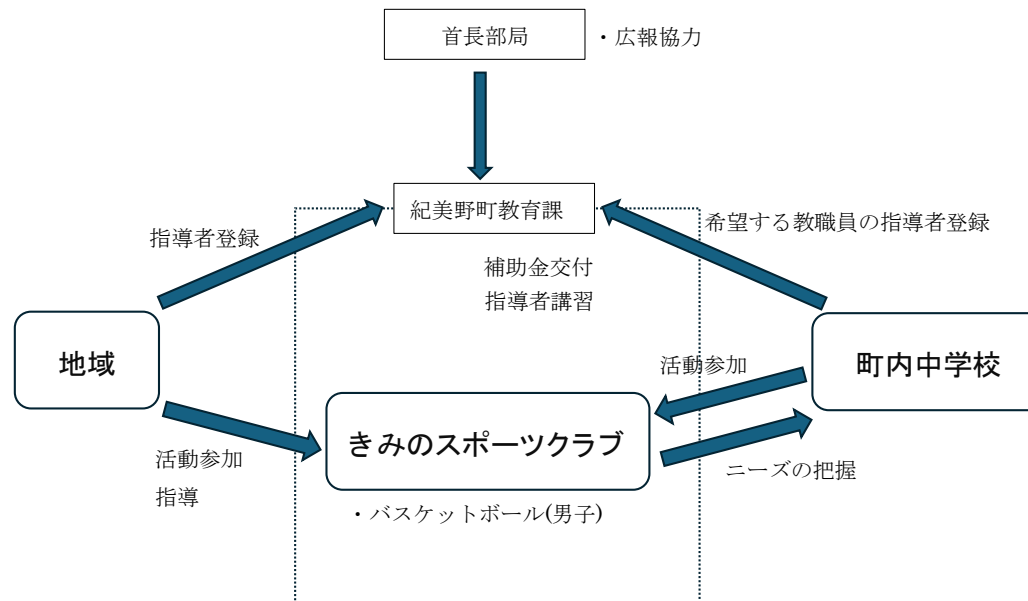
【課題】

現在の紀美野町の出生数を鑑みると、今後減少傾向はますます大きくなることが想定される。

2.実証内容と成果

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◎教育課

- ・学校教育班・・・部活動改革の主幹、学校との調整・連携、指導者の発掘
指導者事務関係調整
- ・生涯学習班・・・社会体育団体との調整

◎首長部局

- ・総務課・・・広報協力

年間の事業スケジュール

令和6年7月	事業計画の策定
令和6年8月	指導者の発掘
令和6年9月	運営体制の確定
令和6年10月	男子バスケットボール部の実施
令和6年11月	指導者の発掘
令和6年12月	事業の見直し

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	1 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		1 クラブ（1 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		0 クラブ
全体の指導者数	4 人	全体の運営スタッフ数	11 人

②各クラブに関すること

クラブ名	運営団体種別	種目	実施回数	実施時間帯	参加者 (学年別)	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数 (他クラブと兼務)	会費	大会参加方法
きみのスポーツクラブ	任意団体	男子バスケットボール部 (新)	約 月 5 回	休日 8:30~ 12:30 (大会等により不規則)	中学1年生 5人 中学2年生 7人	R6.10.1 ~ R7.3.31	野上中学校体育館	4人	11人 (内、兼務5人)	月会費 500円	中体連：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 特になし

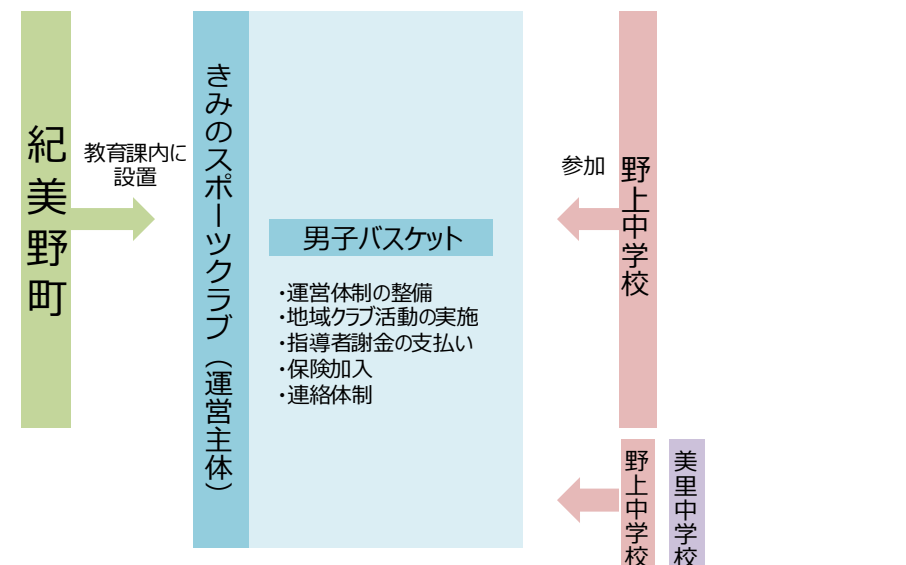
2.実証内容と成果

主な取組例

●きみのスポーツクラブ 活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男子バスケットボール
運営団体名	きみのスポーツクラブ
期間と日数	男子バスケットボール 令和6年度10月1日～ 令和7年度3月31日 月5回程度（など）
指導者の主な属性	地域住民（保護者） 大学生
活動場所	紀美野町立野上中学校体育館
主な移動手段	自転車、スクールバス
1人あたりの参加会費等（年額）	男子バスケットボール：6000円 （R6年度は10月からのため、3000円）
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1850円/年

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：補助金交付等の決裁を行う

●主任指導者 2名

役割：主な指導や大会での作戦指示等を行う

●指導者 2名

役割：生徒への技術・作戦指導のサポート

●運営補助者 6名

役割：運営に関する庶務、雑務を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

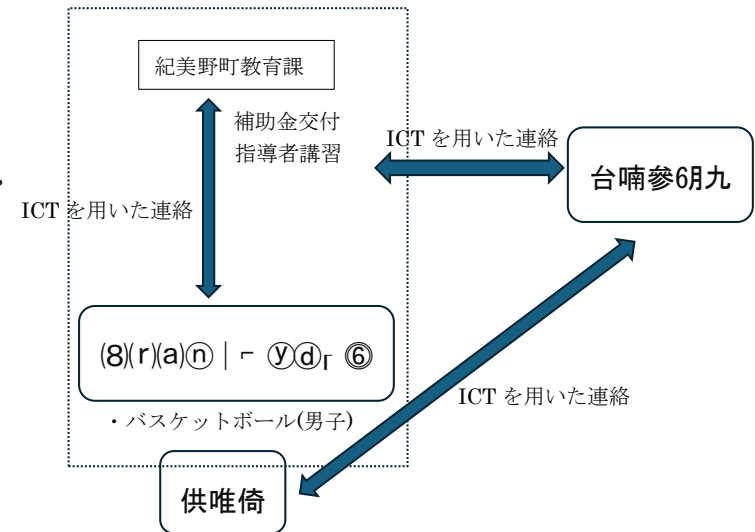
●取組項目名 ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- 「きみのスポーツクラブ」の運営体制の整備や人材の確保など、持続可能な運営ができる組織体制の整備を行う。
- 指導者への連絡、会計業務等にICTを活用する。

取組の成果

- 運営団体・実施主体と中学校との連絡を密に図り、運営を行うことができた。
- ICTの活用により、運営団体・実施主体と中学校、指導者との連絡をこまめに行い、柔軟性のある指導・運営につなげることができた。



出典:紀美野教育課内作成

コーディネーターの具体的な動きの実績

統括コーディネーターは未設置。

今後の課題と対応方針

- コーディネート業務を担うシステムの構築、人材の発掘を行う必要がある。
- 持続可能な運営ができる組織体制の整備。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保①

取組事項	人材バンクの人数	登録者属性	種目	資格有無
・地域在住のバスケットボール経験者（保護者）に指導者依頼を行う。	0名	職業	・バスケットボール	・中学校、高等学校教員免許（保健体育）を取得見込み
・和歌山大学、近畿大学に、指導者としての学生の派遣を依頼する。		・会社経営者 1名		・小学校、特別支援学校、中学校・高等学校教員免許（外国語）を取得見込み
・和歌山県教育支援課、スポーツ課を通して指導者の発掘を行う。	人材バンクの年齢構成	・自営業 1名		
	10代 0名	・学生 2名		
	20代 0名	人材バンクを知った理由		
	30代 0名			
	40代 0名			
	50代 0名			
	60代以上 0名			

取組の成果

- ・地域在住のバスケットボール経験者（中学生保護者）から指導者を2名、大学生から指導者を2名の合計4名を確保した。
- ・専門的な指導者がいない中、教員が手探りで指導していることが課題であったが、指導者4名を確保したことで、生徒がより専門的な指導を受けられるようになった。
- ・教職員の指導に対する負担感が軽減した（聞き取り調査より）。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 イ：指導者の質の保障・量の確保②

指導者研修の内容

- 指導経験の少ない指導者が、指導の現場で指導経験の豊富な指導者とともに、オン・ザ・ジョブ・トレーニングを実施した。
- 指導者と中学校教員等が対話し、生徒の実態把握を行い、ニーズに合った指導を行えるようにした。（情報交流）

指導者研修の参加実績

- ・オン・ザ・ジョブ・トレーニングを1度実施することができた。
- ・上記、情報交流は各指導者(4名)ごとに不定期で行った。

受講者の声

- オン・ザ・ジョブ・トレーニングを受けた指導者の声
「生徒にどのような声をかければよいか参考になった。」
「複数の指導者がいる場合の役割分担などがわかった。」
- 情報交流後の地域クラブ指導者の声
「対話することで、指導の方向性が明確になった。」
「対話をすることで、生徒個々へのより具体的な指導を考えることができた。」

今後の課題と対応方針

- 指導者には、公的な指導者研修会の機会を確保したかったが、その場を設定することができなかった。
- 指導者間の効率的・効果的な連携ができなかったため、今後検討する必要がある。
- 中学校教員がボランティアでサポートしてくれることがあった。働き方改革の観点からも体制の再検討が必要である。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保障・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携して進めていくため、紀美野町校長会において、紀美野町の取組及び今後の見通し等の説明を行った。

○指導者の派遣について和歌山大学と連携した。

○スクールバスを活用できるようにし、生徒の活動場所までの移動手段を確保した（今年度は使用なし）。

取組の成果

○紀美野町校長会において、紀美野町の取組及び今後の見通し等の説明を行うことで、中学校だけでなく、小学校校長にも取り組みの理解をいただくことができた。

○和歌山大学とは他の事業で連携を行っているが、本事業でも連携を行い、関係を深めることができた。その中で、将来教員現場に出る時に生かせる学びが得られたとの学生の意見をいただいた。

○生徒の活動場所までの移動手段にスクールバスを活用することで、生徒・保護者の負担軽減を目指した。

バス等の運行実績

・利用者数 0人

バス等の運航経費・収入

・人件費
実証事業に関わっては特になし。

・利用料
実証事業に関わっては特になし。

今後の課題と対応方針

○大学生に指導者に入っていた場合、大学卒業のタイミングで指導者を続けてもらえない可能性がある。安定した指導者の確保等を行うためにも、大学側と更なる連携強化を図る。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 エ：面的・広域的な取組

取組事項

○指導者の確保については、地域、大学、県教育委員会と連携して実施した。

各自治体の役割

○紀美野町教育委員会
 ・地域クラブ運営、予算管理
 ・関係機関との連絡、調整
 ・理解促進に向けての広報
 ・諸謝金等の事務処理

移動手段

○平日における地域クラブ活動の終了時刻を学校部活動の終了時刻とそろえることで、地域クラブ活動に参加した生徒が、学校のスクールバスに乗り、帰宅できるようにした。

事務局運営の方法

○紀美野町教育課内に「きみのスポーツクラブ」を設置したので、事務局の運営は教育課の職員が分担して行った。今後事務手続き等が増え事務局の負担が増えることも考えられるため、事務局運営体制の検討が必要である。

取組の成果

○多方面に指導者確保の依頼をすることで、多様な属性の指導者を確保できた。
 ・地域住民（保護者）の指導者 2名
 ・大学生の指導者 2名

今後の課題と対応方針

○移行に取り組む運動部活動を増やす。
 ○他市との協力体制を構築し、より生徒のニーズに応じた活動ができるようにする。
 ○平日における地域移行を行う。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実①

取組事項

○生徒の「大会で良い成績を収めたい」という思いと、「自分たちで練習を組み立てながら楽しく取り組みたい」という思いを反映した運営を行った。具体的には、平日には生徒中心で練習を行い、休日には練習試合等も複数回設定した。

○学校教員の力も借りながら、生徒の思いを聞き取り、生徒ニーズの把握に努めた。

活動の詳細

参加人数	12人	指導者数	4人
属性	任意団体		
具体的な内容	・紀美野町立野上中学校 男子バスケットボール部の平日、休日の部活動について、可能な限り地域移行を行った。		
子供の声	「大会で良い成績を収めたい」 「自分たちで練習を組み立てながら楽しく取り組みたい」		
関係者の声	「生徒が専門的な指導を受けられるようにしたい」 「専門性がないので、バスケットボールの指導に不安がある」 「生徒がいきいきと活動できるクラブ活動にしたい」		
運営経費	・指導者 時給 1400円 交通費 1km 35円 ・保険料 指導者 1人 1850円 生徒 1人 800円		

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 オ：内容の充実②

取組の成果

○指導者・教職員・生徒の意見を聞き取ったところ、以下のような意見が聞かれた。

- ・専門的な技術指導を行える教員がいなかったが、地域移行を行ったことで、生徒が専門的な指導を受けられるようになった。（教職員）
- ・地域移行を行ったことで、指導者から専門的な指導をしてもらえるようになり、教職員としての指導に対する負担が減った。（教職員）
- ・地域クラブ指導者と部活動顧問が連携、情報交換することにより、地域クラブ活動の時間の指導方法や練習方法を生かしながら、学校部活動の時間にも指導をすることができた。そのことにより、学校部活動の時間の質も上がった。（教職員）
- ・生徒がいきいきと活動に取り組んでくれたことがうれしかった。（指導者）
- ・生徒が力をつけ成長していく姿が見られてよかった。（指導者）
- ・大学生の指導者は自分達と年齢が近く、わからないことを気軽に聞くことができた。（生徒）
- ・地域クラブ指導者のおかげで新たな練習メニューが加わって良かった。（生徒）

今後の課題と対応方針

○紀美野町は今年度末に中学校の統合を控えている。新中学校では今まで全員参加だった部活動への参加が任意となるため、現状では今後学校のクラブ活動がどのように運営されていくのか、予測しづらい状況にある。

→新中学校が開校し次第、こまめに教員・生徒のニーズを把握し、地域移行を柔軟に行えるようにしたい。

○指導者の安定的な確保ができていない。→引き続き多方面への広報・働きかけを続けていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等①

取組事項

○地域クラブの運営にあたっては、持続可能な仕組みづくりを行なっていく必要があることから、適切な受益者負担額の設定や、公的資金のバランスについて検証を行なった。
○地域クラブ活動で公共施設を使用する場合の使用料を無償とした。

地域クラブに係る経費

■イニシャルコストの分析

0円（今年度は既存システムを使用したため）

■ランニングコストの分析

・指導者謝金（273,000円）
・指導者旅費（42,000円）
・消耗品費（65,592円）
・印刷製本費（12,980円）
・保険料（指導者 7,400円）
（生徒 9,600円）
（システム手数料 280円）

持続的な運営に必要な受益者負担額の試算

・持続的な運営に必要な受益者負担額の試算を行った（検証結果の詳細は次ページ参照）。

収支バランス

・持続的な運営に必要な収支バランスの試算を行った（検証結果の詳細はスライド15参照）

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等②

取組の成果

○運営主体の収支構造を3つに分けて検証を行い「スポーツ活動費（保険料）」については、生徒の保護者等や指導者自らが負担すべきものとする。また、「事務局運営費」については、今年度は既存のシステムの中で運営を行ったので0円であるが、事務局運営費が発生したとしても、生徒へ直接的に支援している経費ではないので、国費や市の自主財源等を活用する。よって、「スポーツ活動費」を受益者負担の対象に検証を行っていくこととする。

○受益者負担額の設定においては、「1ヶ月単位」で、活動の参加有無に関わらず申込者全員で負担する方法をとった。負担額は、保護者の負担感も考慮し、学校部活動時の部費と同額である1月 500円とした。

項目	費用	割合
スポーツ活動費	399980	95.8%
諸謝金	273000	
諸謝金(指導者)	273000	
消耗品費	72000	
印刷製本費	12980	
旅費(交通費)	42000	
スポーツ活動費(保険料)	17280	4.2%
生徒	9600	
指導者	7400	
システム手数料	280	
事務局運営費	0円	0.0%

①	活動月数	6カ月
②	申込者数	12人
③	延べ参加人数	72人

399980 (スポーツ活動費)	÷	6 (月数)	÷	12 (申込者数)	=	5555.2… (1月あたりの 受益者負担額)
---------------------	---	-----------	---	--------------	---	-------------------------------

今後の課題と対応方針

○今年度の実績をもとに受益者負担額を試算すると、1月あたり約5,555円となり、今年度の受益者負担額の10倍以上となり、今年度の活動形態では将来運営が難しいと分かった。

○スポーツ活動費に絞って、参加者に負担を求める場合であっても、一定の人数の参加がなければ賄えないことになり、持続可能性に視点を置いた

時にあやうい。一方で必要経費すべてをまかなえるように受益者負担を求めると、保護者の負担感が大きくなり、現状の学校部活動との差異も大きくなり、地域クラブ活動への移行に理解が得難くなる。低廉な受益者負担を求めたうえで、少なからず企業の協賛や行政の支援が必要であるため、持続的に活動することを前提とした仕組みを構築する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保障・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 カ：参加費用負担の支援等③

項目	費用
スポーツ活動費	806980
諸謝金	560000
諸謝金(指導者)	560000
消耗品費	150000
印刷製本費	12980
旅費(交通費)	84000
スポーツ活動費(保険料)	生徒等負担
生徒	
指導者	
システム手数料	
事務局運営費	0円

○R6年度は6カ月の事業実施であったが、12カ月間事業を実施すると想定し、スポーツ活動費をR6年度を参考に算出した。

○スポーツ活動費(保険料)は生徒負担、事務局運営費はR6年度同様0円と想定し、スポーツ活動費のみを受益者負担として考えた。

○申込者数を、10人～30人までの間を想定し、1月あたりの受益者負担額を算出した結果、左の表のようになった。30人の申込者数があった場合でも、受益者負担額は2000円を超え、現在の学校部活動の部費500円の負担を大きく上回る。このことから、学生から大人まで、幅広く参加できるクラブを運営していく必要がある。

806980 (スポーツ活動費)	÷	12 (月数)	÷	10 (申込者数)	=	6724.8… (1月あたりの 受益者負担額)
806980 (スポーツ活動費)	÷	12 (月数)	÷	20 (申込者数)	=	3362.4… (1月あたりの 受益者負担額)
806980 (スポーツ活動費)	÷	12 (月数)	÷	30 (申込者数)	=	2241.6… (1月あたりの 受益者負担額)

出典:きみのスポーツクラブ作成

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 キ：学校施設の活用等

取組事項

○地域クラブ活動の主な活動場所を、学校部活動の活動場所と同じ場所にした。 ○地域クラブ活動として実施する際も学校施設、学校備品を無償で活用できるようにした。

取組の成果

○地域クラブ活動として実施する際に学校施設（中学校の体育館）を活用できるようにしたことで、生徒が学校部活動と同じような流れで地域クラブ活動に参加できた。
○地域クラブ活動として実施する際も学校施設、学校備品を無償とすることで、地域クラブ活動の負担を少なくした。
○地域クラブ活動として実施する際に学校備品を無償で活用できるようにしたことは、学校部活動から地域クラブ活動へのスムーズな移行を行う一助となった。

今後の課題と対応方針

○地域クラブ活動として実施する際に学校施設の無償使用を許可したが、特に土日の活動については、学校施設の利用に関して、学校教職員の支援も借りていた。今後持続可能な運営、教職員の働き方改革の観点から、学校教職員に頼らない学校施設利用システムの構築を行う。
○学校備品の破損等も考えれることから、地域クラブの備品を充実させていく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

●取組項目名 ク：その他の取組 平日の移行

取組事項

○取り組み推進の観点から、休日だけではなく平日も含めた地域スポーツクラブ活動への移行に向けた取組等を実施し、課題の抽出や課題解決策の検討等を行った。

○具体的には、休日に加えて、平日の一部の学校運動部活動を地域クラブ活動に移行した。

取組の成果

○平日においても数日地域クラブ活動として実施することができた。

○平日に地域クラブ活動を実施しやすいように、活動場所を野上中学校の体育館としたことで、部員は特別に移動することなく、地域クラブ活動を行えた。

○平日の地域クラブ活動の時間を学校部活動の時間と同じにすることで、地域クラブ参加後の帰宅にスクールバスを活用できるようにした。今年度スクールバス利用の生徒はいなかったが、今後に向けての1つの形を提示できた。

○様々な職種の指導者を4名確保できたことで、平日でも指導に入っていただくことができた。

指導者の属性や配置の工夫

・指導者の属性
大学生

・配置の工夫
なるべく早く指導者の予定確認を行った。

一貫指導に関する部活動顧問との連携事例

・平日実施における指導者が大学生ということもあり、部活動顧問も地域クラブ活動の場に可能な範囲でサポートに入ってくれた。その場で部活動顧問と指導者が直接対話することで連携を行った。

今後の課題と対応方針

○平日の指導者の確保が課題となった。今後も多方面に働きかけを行い、引き続き指導者の確保に努める。

2.実証内容と成果①

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

令和6年度10月から、紀美野町立野上中学校男子バスケットボール部において、運動部活動の地域移行を行った。

成果としては、大きく次の2点が挙げられる。①生徒・学校教員のニーズに応じた指導を行えたこと ②複数人の指導者を確保できたことである。

課題は、①指導者の安定的な確保 ②地域クラブ活動の定期的な開催 ③教職員の負担の軽減 ④受益者負担による運営 など多数見つかった。

来年度、新設中学校が開校され、学校部活動への参加が任意になることから、生徒・保護者のニーズは大きく変わることが予想される。生徒・保護者の思いを丁寧に把握し、今回の実証事業の中で見えてきた課題解決に取り組みながら、引き続き男子バスケットボール部の地域移行を行っていききたい。そして他の運動部活動についても地域移行を行えるよう準備を進めていきたい。また持続可能な地域クラブ運営を見据え、隣接市町との合同での地域移行についても連携を取りながら検討していきたいと考える。

●成果の評価

①生徒・学校教員のニーズに応じた指導について

本実証事業を受ける際に、生徒からの「大会で良い成績を収めたい」「自分たちで練習を組み立てながら楽しく取り組みたい」という思い、教職員からの「専門性がないので、バスケットボールの指導に不安がある」「生徒がいきいきと活動できるクラブ活動にしたい」という思いがあった。半年間の実証事業の中で、このような生徒・教職員のニーズに応えた指導ができた。

②複数人の指導者の確保について

今回、地域住民(保護者)から2名、大学生から2名と複数名の指導者を確保できたことで、地域クラブ活動実施日を増やすことができた。また様々な属性の指導者が確保できたことで、全体での指示を出す指導、生徒の中に入りながら行う技術指導など、多様な指導形態をとることができた。

●今後に向けて

総括に記載した通り課題は多岐にわたるが、新設中学校での部活動の状況を踏まえながら運動部活動の地域移行を推進していきたい。特に運営財源の確保、安定した指導者の確保については、優先的に検討を重ねる必要がある。

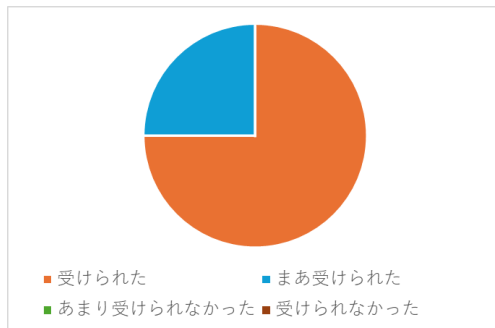
また紀美野町だけの取り組みでは、持続的な活動が難しくなる。近隣市町との連携を深めながら、更なる地域移行を進めていきたい。

2.実証内容と成果②

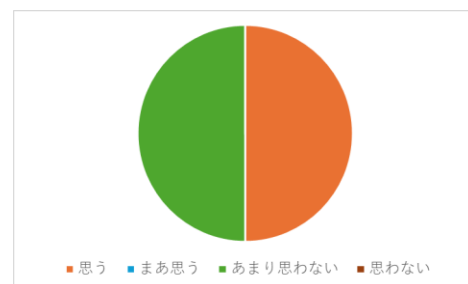
アンケート結果・参加者の声

●アンケート結果

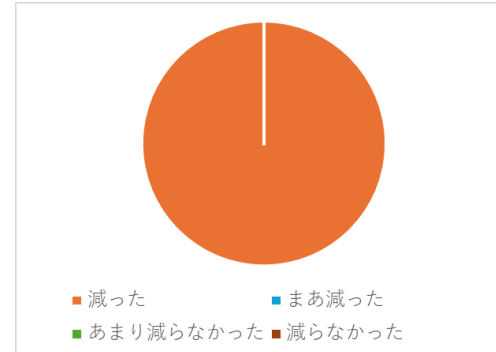
Q.地域クラブ活動への移行の取組が始まったことで、より専門的な指導が受けられましたか。【対象：生徒】



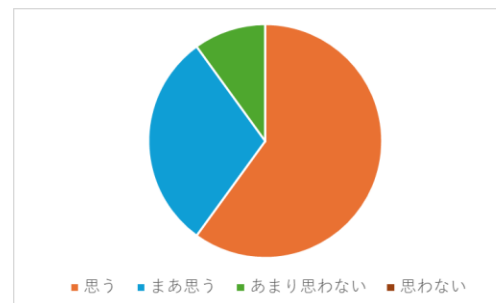
Q.地域クラブ活動の指導者となって良かったと思いますか。【対象：指導者】



Q.地域クラブ活動への移行が始まったことで、教職員の負担は減りましたか。【対象：教職員】



Q.地域クラブ活動の時間では、子ども達の思いにあったクラブ活動ができたと思いますか。？



●参加者の声

中学生

- ・指導者のおかげで新しい練習メニューも加わってより楽しくなり、もっと強くなるという気持ちが高まった。
- ・限られた時間でみっちり教えてもらえるので、バスケットがより楽しくなりました。
- ・バスケットを詳しく教えてもらえて良かったけど、放課後があまり見てもうえなかったのが残念でした。
- ・中学校での部活動を継続してほしい。この先、地域クラブ活動になり、他の場所に行かないといけなくなるのならいやだ。

教職員

- ・専門的な練習やアドバイスは子ども達にとって大いに価値がある。教師だと専門外で持つことが多く、負担が大きい。指導者の人選（教育的配慮がなされるのか）が大切である。

指導者

- ・まだ指導者としての時間がまだ少なくこれからですが、子どもたちが頑張れる環境と保護者の方の協力や支持が得られるようになり、地域クラブとしての活動はまだ課題が多いと思います。
- ・保護者であり指導者であるので、子供の引退と共に指導の時間も取れない為、次の指導者を継続して探して欲しいです。成果は週末数時間しか見れないので、平日の短い練習時間が大切になると思った。ずっと見てあげられないので、練習の成果が見えてこないのが残念でした。

保護者

- ・教職員の方々の負担も少なく、クラブの知識のある外部コーチが入ってくださる事は大変有り難いと思います。
- ・子供達が楽しそうに活動できているのでいいと思います。
- ・放課後に練習を指導してもらえるコーチがあれば良いと思います。

2.実証内容と成果③

アンケート・広報資料

○バスケットボール部 部員募集のためのポスターを作製した。まずは野上中学校内に掲示し、中学生の部員募集に活用した。



【参加啓発チラシ】

出典:きみのスポーツクラブ作成

○バスケットボール部の生徒・保護者・指導者・教職員を対象に実証事業に関するアンケートを行った

野上中学校【バスケットボール部】の皆様へ

紀美野町教育課

野上中学校【バスケットボール部】に関するアンケートへの御協力をお願い

現在、紀美野町では、学校で行われていた部活動を地域クラブ活動へ移行する取組を推進しています。その取組の一環として、令和6年度10月1日より国の実証事業を受け、野上中学校バスケットボール部の活動の一部を地域クラブ活動に移行し、教職員以外の方に指導者に入っていただくなどしながら活動を進めています。この取組については、令和7年度以降も可能な限り継続していきたいと考えています。

つきましては、来年度以降の取組推進のために、野上中学校バスケットボール部に関わる中学生・保護者・教員・指導者の皆様を対象としたアンケート調査を実施いたします。

御多用のところ誠に恐縮ではございますが、下記のQRコードから回答フォームへアクセスいただき、【令和7年2月2日(日)まで】に、質問への御回答をお願いいたします。

記

○調査への回答について

該当するQRコードを読み込み、回答フォームからご回答ください。

※回答可能期間：令和7年2月2日(日)まで(既に回答受付中)

中学生の方はこちら→	
教職員の方はこちら→	
地域クラブ指導者の方はこちら→	
保護者の方はこちら→	

【アンケート】

出典:きみのスポーツクラブ作成

2.実証内容と成果④

参考資料（活動写真）



【指導者と生徒が話し合う様子】



【指導者が生徒に交じり実技指導する様子】



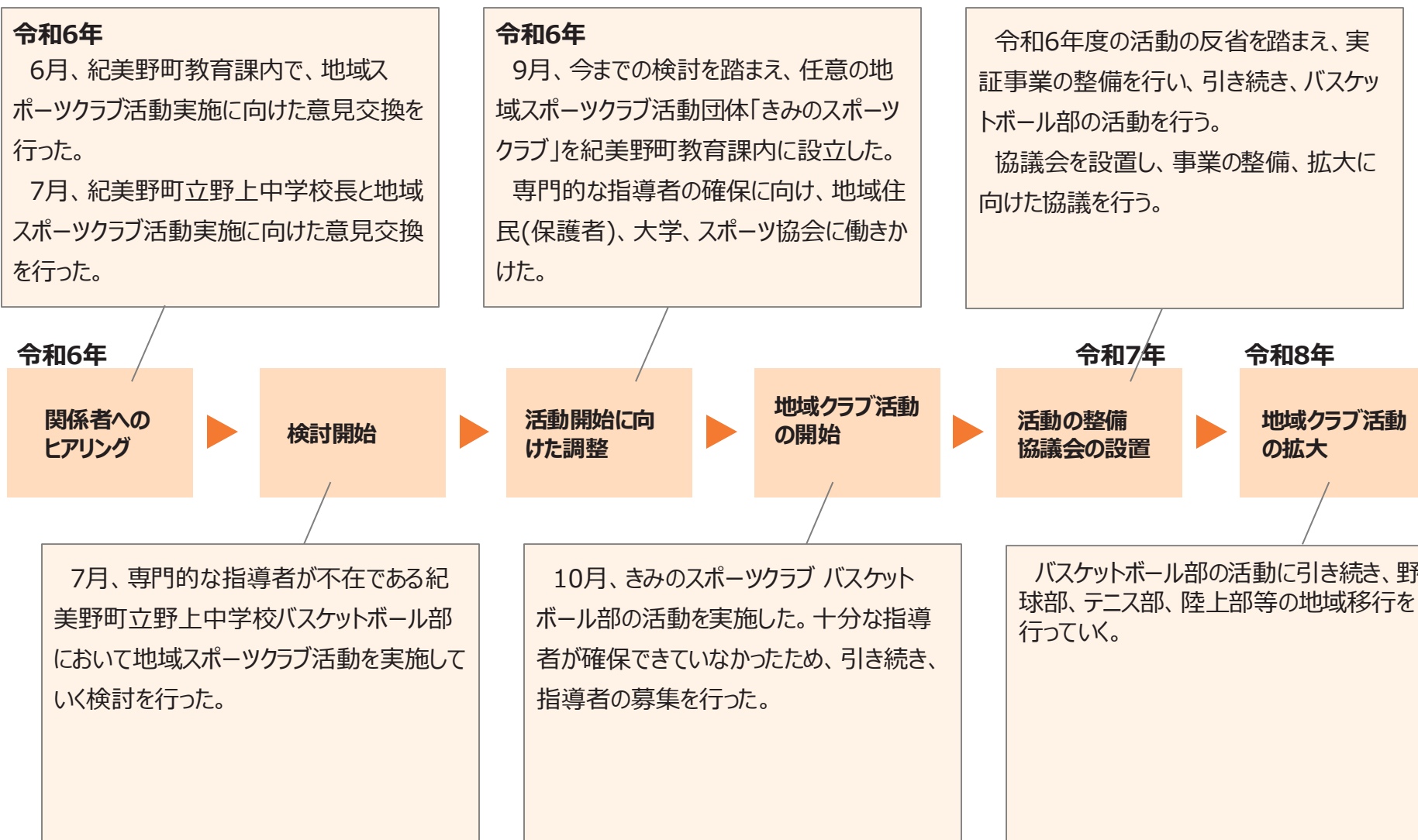
【指導者が指示を送る様子】



【試合を行う様子】

2.実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



3.今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	2023年度(R5年度)	2024年度(R6年度)	2025年度(R7年度)	2026年度(R8年度)	目指す姿
県	協議会の設置、運営			令和8年度までに、各市町村が持続可能な地域クラブ活動の運営体制を整えることができるよう、県の支援体制を整備する。	○少子化の中でも、子ども達のニーズに応じたスポーツ・文化芸術活動ができる環境を整備し、豊かな人生を送れるような選択肢の提供 ○学校部活動を地域・民間に展開し、地域全体のスポーツ・文化芸術振興のチャンスに ○学校の働き方改革の推進
	学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針作成	学校部活動及び地域クラブ活動の在り方に関する方針周知			
	県協議会での検討内容発信				
	意見交流会の実施(紀北・紀南各地域)				
	好事例研究	好事例紹介			
紀美野町	地域移行の検討	【国費】実証事業の実施		実証事業の拡大	
		施設利用に関する検討			
		地域人材・クラブ団体の掘り起こし			
		クラブ団体指導者への研修の実施			
学校	教師、生徒・保護者のニーズ把握				
		地域クラブ活動への移行拡大			
		地域クラブ活動の学校施設・備品利用についての検討・整備			
クラブ団体		補助金による運営		会費を徴収して自己運営	
		適正な会費、場所や指導者の確保等 運営方法の検証			
		地域人材(指導者)の募集・採用			